

りんごのきのした農園

2021/2022年ご案内 

早いもので2021年も折り返し地点を過ぎ、りんごシーズン開幕の時期となりました。2017年の創業時は友人・知人中心だったお客様の輪が、今では700名以上の方々にまで広がっています。これまでの皆さまのお力添えとご厚意に感謝申し上げます。りんごの樹が成長し、年輪を重ねるように経営の規模も徐々に大きくはなっていますが、世界はまだコロナ禍です。急な背伸びはせずに、今は緩い坂道を上るときのようにゆっくりと着実な成長をすればよいのではないかと考えています。

日本の農業のほとんどは「**家族農業**」として営まれています。大企業も参入し始めましたが、いつの時代も日本農業の主役は家族農業です。コロナ禍のような経営環境が激しく変化する状況でも弾力的（レジリエント）で持続的な営農活動が行いやすく、また農村の維持や食糧安全保障面でも重要な役割を果たしています。国連が2019-2028年を「家族農業の10年」と定め、国連加盟各国の農業政策の中心に家族農業を据えることを提言しているのは、この理由からといえます。昨今、国の農業政策には新施策が次々と打ち出されています。AIを活用したスマート農業の展開、有機農業の推進、農村漁村の地域資源活用策等々、どれも魅力的で国には頑張ってほしいと期待していますが、これらは家族農業を前提にしてこそ効果が高いと思われ、その考え方で推進してほしいと願っています。

さて**今年のりんごの育成状況**です。春は例年になく早く訪れ、まるで初夏の様相でした。ぐんぐんと芽が伸長したところで冷え込みが続き、県内広範囲で凍霜害が発生しました。私たちの園では一部品種の収量減や品質低下を予想していますが、主力のサンつがるやサンふじはこれまでのところ順調に育成しており、豊作を期待しています。新しいりんご園場では、「シナノゴールド」や「ピンク・レディー®」という品種の苗木を育成中です。収穫はまだ5年ほど先と見込みますが、将来楽しみに！



昨冬はサンふじの一部で「**スマートフレッシュ**」という収穫後処理技術の適用を試行し、6月ぐらゐまで瑞々しさを保つことに成功しました。これはEU等40か国以上において安全性が承認され、適用されている収穫後処理技術で、日本では2010年に食品安全委員会が安全性を承認しています。フードロス削減の観点からも、今後はわが国でも普及していくとみられます。

今年から売上の一部を**認定 NPO 法人 ESA アジア教育支援の会**に寄付します。ESAは1979年からバングラデシュとインドで貧困の度合いが厳しい農村や都会のスラム等において教育支援活動を行っている団体です。教育こそが貧困の悪循環から抜け出す第一のステップであり、また社会のイノベーションが起こるためには教育のすそ野を広げることが何よりも大事であること、またESAが教育支援の一環として販売しているカレースパイスのおいしさを多くの方に紹介したいと考え、支援を決めました。



最後に、新しい商品のご紹介です。りんご・ピーツ（ほうれん草の仲間）・人参をブレンドした**"ABC (Apple, Beetroot, Carrot) ジュース"**のデビューです！ピーツの鮮やかなピンクと、独特な香りをほどよく楽しんでいただけるよう、材料バランスを試行錯誤しました。ピーツが持つ抗酸化作用のあるポリフェノール（ペタイン）、鉄、食物繊維などの優れた栄養素を美味しく手軽に摂取できるミックスジュースを皆さまの健康づくりにお役立ていただければ幸いです。



今年も皆さまに喜ばれるりんごをお届けできるよう、日々努める所存です。今後ともどうぞ宜しくお願いします。

2021年7月 りんごのきのした農園 木下 佳信